

# 「ネーミングの怪」①

同窓会会員：藤井 輝

投稿日：平成27年7月1日

## 1. 「カトリーナ」……ハリケーン

今年（2015年）は台風の当たり年になりそうだ、とは、気象予報官の話である。3月28日に4号が発生し、このペースは50数年ぶりとのこと。その後小康状態が続いているが、今年（2015年）は予測が難しいとも言われている。日本では毎年、台風の発生順に番号で登録され、特別なものは「室戸岬台風」「伊勢湾台風」などと命名される。

ところが、アメリカ西岸やカリブ海で猛威を振るうハリケーンは、女性名で呼ばれることが多かった。何故だろうか？ と不思議に思っていた。アメリカにおいては、女性は脅威の象徴なのだろうか？ と勘ぐりたくもなるが、案の定、不都合がささやかれたのか、1979年から男性名と女性名が交互に使われるようになっている。

右の写真は、2005年8月にカリブ海でアメリカ南部を襲ったハリケーン「カトリーナ」の衛星写真である。ルイジアナ州とミシシッピ州を中心に、記録的な被害を出した。



2005年8月 ハリケーン「カトリーナ」  
カリブ海でアメリカ南部を襲う

もともとハリケーンに人名が付くようになったのは、今から100年ほど前、オーストラリアの気象予報官が、一番嫌いな政治家の名前を付けたのが始まりと言われている。これは招かれざる客（ハリケーン）に対して的を得ていると思う。ところが、アメリカの女性名はとなると、理解できなくなるのである。

最低中心気圧	902hPa
上陸時の気圧	920hPa
死者	1,836人
行方不明者	705人

一説によると、太平洋戦争中、太平洋に出撃していたアメリカの海軍兵は、ハリケーンに遭遇した時（日本寄りの海域であれば台風）、自分の妻や恋人の名前を付けたのが始まりとも言われている。何故？ 私が見つけた「一説」にはこの「何故」が書かれていなかった。

そこで私の勝手な想像は、猛り狂うハリケーンに向かって、妻や恋人の名

前を呼びながら「助けてくれー」と叫んだのではなかろうか。兎に角、恐ろしいハリケーンに妻や恋人の名を付けるとは、とても理解できない。

他説には、

「書くにも話すにも、短くて特色のある名前を使う方が、迅速にコミュニケーションできミスも少なくなることが、経験から判っている」

と有ったが、説得力もなく、何故女性名なのか、に対して答えになっていない。

そこで、「ハリケーンには、なぜ女性名が使われたのか？」ご存知の方は教えてください。私にとっては正に「ネーミングの怪」です。

## 2. 「どんぞこ」……日本料理店の店名

「どんぞこ」は今から16年前のこと、スペインのマドリードで入った日本料理店の店名である。この頃は、ヨーロッパではまだ日本料理は珍しく、初めて入ってきたお客から店名の意味と由来を聞かれた場合、どう答えているのだろうか、と不思議に思った。店内は日本調で、店員もシンプルなカスリの和服を着た女性(日本人?)たちで、静かな雰囲気であった。命名者は遊び心からつけたのだろうか？

## 3. 「爆弾ハナタレ」……焼酎

私がよく行く小料理店のカウンターに有ったもので、透明なビンに貼られたレタテルが気に入り、手に取ってみた。それには

「爆弾ハナタレ」 本格焼酎 44.1度 宮崎県(株)黒木商店

とあった。カウンター内のママさんの話では、常連のお客さんが珍しい物を見つけたと言って持ってきたらしいが、詳しいことは分からないとのこと。私なりに検討した結果は次のようになります。

ハナ＝端：物の先端部、物事の始まり、最初

つまり、焼酎の“一番搾り”のことだろうと推察した。それにしても、思い切ったネーミングではあります。

## 4. 「ベビースネーク」……菓子パン

渦を巻いた円錐形の菓子パンである。古い話で、私が下宿生活を終えて、アパート生活に入った頃、朝食はインスタントコーヒーに菓子パンで済ませていた時期があった。結構美味しいパンで、よく食していた。カタカナで表示されると、案外気にならないものらしい。これが、「渦を巻いた」を「とぐろを巻いた」となるとアウトである。

以上